



令和2年11月号

<11月の予定>

◎稽古時間： 木曜日・・・17：00～19：00（稽古場所は針ヶ谷小学校体育館）
土曜日・・・15：00～17：00（稽古場所は本太中学校修道館）

■14日（土） 保護者会 15:30～（本太中学校修道館）

<12月の予定>

◎稽古時間： 木曜日・・・17：00～19：00（稽古場所は針ヶ谷小学校体育館）
土曜日・・・15：00～17：00（稽古場所は本太中学校修道館）

■12日（土） 一級審査会（大宮武道館）

■19日（土） クリスマス会（本太中学校修道館）

■26日（土） 駒剣稽古納め

<R3年1月の予定>

◎稽古時間： 木曜日・・・17：00～19：00（稽古場所は針ヶ谷小学校体育館）
土曜日・・・15：00～17：00（稽古場所は本太中学校修道館）

■7日（木） 駒剣稽古始め

■~~30日（土）~~ 埼玉田島剣友会創立50周年記念剣道大会（大宮武道館）→延期

※状況により中止や稽古場所の変更があります。

詳細等は slack をご確認ください。





本荘先生からのお言葉

日中は陽射しが暖かく気持ちよい風も吹き、過ごしやすい日が多くあります。しかし、朝晩は寒さを感じたりもし、日も短くなりました。稽古の行き帰りは交通事故や不審者などに気をつけるなど、十分な安全対策を心がけてください。稽古中のけがを含め、事故なく稽古を継続していきたいと思います。

さて、10月24日(土)に久しぶりに月例試合を行いました。10月の木曜日には試合練習をしていますし、9月12日(土)にも団体戦を一度やりましたので、試合稽古自体は少しずつ実施していました。今回は、木曜日に6年生が審判の仕方を指導されていましたので、その実践の場として審判を含めた5人制の勝ち抜き団体戦を行いました。まず試合ですが、多くの者が一本になる打突が打てるようになっていきます。みんな上達しています。こつこつと稽古を積み重ねてきた成果です。そして審判については、6年生4名が交替で主審をし、他の6年生と一部5年生に副審に入ってもらいました。講習のおかげで主審の発声、所作がしっかりできていたこと、主審、副審とも自分が有効打だと思った時ちゃんと旗を上げ、ダメだと思ったらきちんと旗を振り、よくできていました。中学生の錬成会に行くとお互いに審判をやっている、良い技にもほとんど旗が上がらない場面を目にします。試合者がかわいそうにさえなります。今回は意思表示をしっかりできていたと思います。駒剣を卒業した剣士は、中学校でもきちんと審判ができるようになってもらいたいです。



10月は、初段、二段、三段の昇段審査があり、駒剣から多くの昇段者ができました。おめでとうございます。審査は、実技と剣道形になりますが、やはり日頃どれだけ稽古を積んでいるかが問われます。しっかり指導を受け、稽古を重ねていけば、見る人が見ればそれはわかります。今月は、高段位の審査会があります。段位が高くなると求められる基準が高くなり、簡単に合格とはいかなくなります。己の精一杯を出せるよう稽古を積んでください。今回合格された方も引き続きの精進をお願いいたします。

11月2日の産経新聞に埼玉県警剣道特練監督の米屋勇一氏のインタビュー記事が載っていました。特練では4月以降対人稽古はまったくやれておらず、素振りや足さばき、そしてランニングなどのトレーニングだけだそうです。剣道日本一を決める「全日本剣道選手権」、毎年11月3日に開催されていますが、今年は延期され実施できていません。剣道界にとってまだまだ「平常」には程遠くいろいろなことに配慮しなければなりません。そんな中でも、駒剣においては、剣道を体験しようとする者や新たな入会者がでてきてくれています。剣道の楽しさを感じてもらえる人が一人でも多くなるのは有意義なことですし、駒剣の仲間が増えるのはたいへんうれしいことです。子どもも大人も、始めたばかりの子も経験者も、一人ひとりが大切にされる駒剣でありたいですね。引き続き皆様よろしくをお願いいたします。

太郎の百錬自得



第 80 回

10月木曜では6年生を中心に審判にチャレンジしてもらいました。審判の回数を重ねるたびに審判が上手になっていましたね。審判をすることで、自分が試合していたり、稽古しているだけでは分からないこと、が見えたのではないかと思います。私も審判をやって、「どうしてここで打たないのだろうか、なぜここで打っているのだろうか。」と、自分がプレーヤーでは分からないことが見えた経験があり、それが自分の稽古に活きた経験が何度もあります。6年生もぜひ、今月の審判経験を今後の稽古に活かして行って欲しいです。

審判で気をつけること3点まとめましたので、復習しておきましょう！

審判で気をつけること

- ・しっかり見えるところに移動する
- ・はっきり意思表示する
- ・声を大きく宣言する

私はある先生に教わったのは、旗を「上げる勇気」についてです。

「あげない後悔よりもあげた後悔。有効打突をあげないのは簡単、微妙なところを旗をあげる勇気がないと。審判は3人いるんだから、ここだと思ったら旗をあげることだ。」

ぜひ、覚えていてほしいです。

小学生は毎週試合をしてもらいました。今年は大会や錬成会がなく、試合経験が不足していました。部内戦ではありますが、多少でも試合経験を積むことができたのではないのでしょうか。

最初は基本稽古を試合に活かさきれていないことも多くみられましたが、試合を重ねるごとに、有効打突へのこだわりが生まれてきて、それが基本稽古にも反映されてきたように思います。

10月、みんなの稽古内容も良くなったと思います。引き続きこの気持ちで稽古を続けましょう。

試合で注意したいことをまとめました。

勝ち負けよりも大事なこと

- ・礼法（開始線3歩前でしっかり礼をする、など）
- ・発声（気合を入れる、打突部位をしっかり発声する）
- ・相手への敬意

これらが出来てないのに、勝った負けたを追求してはいけません。

「打って反省、打たれて感謝」という言葉があります。

一本とっても、たまたまかもしれない、もっと良い機会がなかったか、と反省すること、一本とられたら、自分の隙を教えてもらったことになりますから、感謝して稽古に活かす、ということです。ぜひ頭に入れておいてほしい言葉の一つです。

最後に、主に土曜日中心の参加ですが、体験に来てくれる子、そして新入会してくれた子が増えてきています。初心者のうち、稽古は基本的なことの繰り返しが特に多くなりますが、基本が重要です。しっかり身につけると後々の伸びが違います。早く防具付けたい、経験者組と一緒に稽古したい、と思う気持ちもよくわかりますが、焦らずいきましょう。

また経験者組は、いろいろ話しかけてあげたり、教えてあげたりしてください。仲間が増えるのは嬉しいことですよね。寒くなります、体調管理をしっかり元気に過ごしましょう。

～ 審判練習 ～



新ジャイアンのはなうた♪



よっ！ みんな、元気か？

この原稿は11月2日に書いているんだけど、昨日は日曜日でお休み、明日は文化の日でお休みな
ので、今日、仕事をさぼると4連休だったのに、悲しいかな、ジャイアンは、丸一日、お仕事です。
え？みんなも学校に行ってるって？でも、学校は楽しいじゃない。友達いるし、遊べるし。

なに、ジャイアンは大人じゃないかって？おとなはつらいよな！！

むだばなしはこのくらいにして、明日の11月3日は何の日か、みんな知っているかな？剣道を
している人には特別な日、そう、全日本剣道選手権が開催される日なんだ。この全日本剣道選手権
でその年の日本一が決まるんだけど、今年は、コロナウイルスのせいで、11月3日の開催はでき
なくなってしまったんだ。日本一を目指して努力を重ねてきた選手たちにとっては、本当に残念な
ことだな。でも、来年1月から3月までの時期にやるかもしれないんだって。少しでもコロナがお
さまって、全日本剣道選手権が開催されることを祈るしかないな。みんなも、祈ってくれよな。そ
して、開催されたときには、NHKで放送されるから、是非、見てくれよな。日本一はやはりすご
いぞ。速くて、竹刀が当たったのが見えないぞ。

ところで、この1か月で、初段、二段、三段の審査があったな。駒剣からも、先輩や、みんなと
稽古しているお父さん、お母さんがたくさん合格したぞ。みんなには、わからないかもしれないけ
ど、大人は、仕事があったり、色々な用事があったりするの、なかなか稽古する時間をとれない
んだ。例えば、お当番の時には稽古したくてもできないよな。だから、大人の人が、少ない稽古時
間で昇段することは素晴らしいことだと思うぞ。みんなも、お祝いの言葉をかけてあげてくれよな。

最後の話題は、そのお父さん、お母さん剣士へのお礼の話だ。

コロナウイルスのせいで、お父さん、お母さん剣士の人たちが、元立ちに立って来て、稽古す
る機会が減ってしまったな。お父さん、お母さん剣士の人たちは、みんなの技を受けるときも、打
ちやすいように、正しく打てるように受けてくれたり、いろいろコツを教えてくれたりもするよな。
そして、地稽古なんかでも、みんながあきないように稽古してくれたりしてるな。

今、コロナウイルスのせいで、一緒に稽古する機会が減って、子どもどうして稽古すると、その
ありがたみがよくわかるんじゃないかな。

だから、お父さん、お母さん剣士の人たちと稽古するときは、感謝の気持ちをもって、一生懸命
稽古しような。一生懸命稽古することが、一番の御礼になるぞ。

じゃあ、またな！

威風胴々 no.5

清水 聡

これまでは胴台の仕上げ方について、漆で『塗る』方法や動物等の革を『貼る』方法についてお話をしてきました。今回はもうひとつの仕上げ方である、『編む』についてお話します。

編むって言われてもピンと来ないかもしれませんよね。誠に勝手ながら清水独自の分類方法で名付けました。

文章で書くよりも、実物を見たほうがわかりやすいので、まずこちらの胴をご覧ください



見たことある方も多いかと思います。埼玉大学女子剣道部の試合胴と同じタイプの胴です。写真の胴は実際に試合で使用されたものではありません。浦和の故鈴木謙伸さんが製作された胴です。短冊状の竹の表面に穴を開けて、細い革で編んでいます。「網代胴（あじろどう）」と言います。この胴をご覧になって、これまでにご紹介した漆塗り胴や、動物の革を貼った胴と比べると、なんとなく古めかしい印象を持たれた方がいらっしゃるかもしれません。そのとおりで、昔はこの網代胴こそが胴の基本形だったのです。

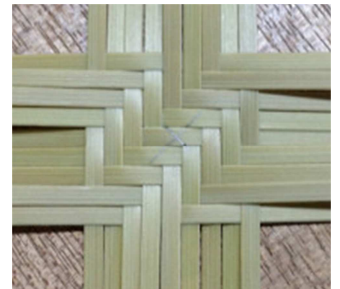
竹の表面は何も塗られていません。ただ、鈴木さんはこの胴の裏側に牛革を貼られました。おそらく耐久性や衝撃吸収性を向上させるために貼ったのだと思います。網代胴は裏側に何も貼っていないタイプもあります。



網代胴の名前の由来は清水の予想ですが、“網代編み”から付いたのではないかと考えています。

昔は川で魚を捕まえる時に、網（あみ）に代わるものとして竹や細い木を組んだ仕掛けを作ったものに由来しています。木や竹を細く薄く削った物を縦横交互に編んだものを網代と呼んでいます（右図）

“網代胴”でググると幾つも見ることができます。編み方には2、3のパターンがあるようで、綴じ革には黒、白、茶色があるようです。



当然、胴ですから竹刀で打たれる訳なので、綴じ革は損傷しやすいように思います。しかも、裏側に何も貼ってない網代胴はグニャグニャと曲がりやすいのでは？と不安になります。昔に比べ

て戦後の近代剣道で使用されている竹胴の竹の厚みは薄くなっていて、最近では厚みが5~6mm程になっています。現在の一般的な竹胴は40本から60本程度の細長い短冊状の竹がドーム状に並べられています。その5~6mmの厚みの竹の中を横方向に細い穴が開けられており、その中を琴糸が通されています(図1)。

この琴糸が通されているおかげで、胴台自体がゆがんだり、一つ一つの短冊状の竹がばらけることはありません。

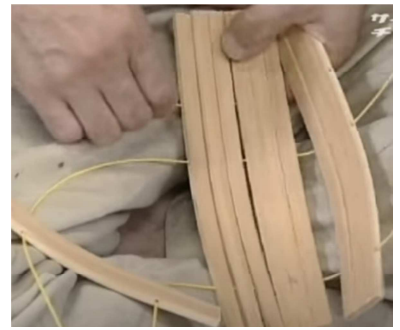


図 1



図 2

とは言うものの、前号までに紹介

してきた漆塗り胴や、革を貼った胴に比べると、耐久性が劣るのではないかと心配になりますし、打突の衝撃を吸収する力は少ないのではないかなと思います。ですが、裏にも牛革を貼らないのであれば、その分、軽くなるので試合用には好都合かもしれません。さてさて、網代胴こそが昔の胴の基本形と言いましたが、ちょっと古い網代胴を幾つか見つけたので紹介します。図2は松勘製の胴です。製作時期はわかりませんが、松勘の創立は明治40年なので、それ以降に作られたものでしょう。短冊状の竹の幅は23mm前後で、本数は26本前後と思われます。胴胸には子胸(足)がありません。昔の胴の特徴です。現在でも子供用の胴には子胸(足)が付いていません。胴を打たれた時に外れて脇の下に当たりそうで痛そうですね(笑)



図 3

更に、この写真の防具を調べていたらこんな写真(図3)も見つけました。よく見ると1本1本の竹は少し隙間が開いています。ということは、竹の中を横に通す琴糸が使われていないということです。相当、グニャグニャに変形するように思います。しかも打たれたらお腹に響きそうですね。そして個人的にびっくりしたのが(図4)(図5)の写真です。よく見ると、この胴は垂と一体型なんです。おっ、こっちのほうが装着が楽じゃないですかって思うのは私

だけでしょうか。明治~大正の頃はこれがスタンダードだったのかな?



図 4



図 5

ちょっと面白そうでしたので更に歴史をさかのぼってみることにしました。



こちら、熊谷市の梅沢武道具店の陳列棚にある網代胴です。江戸時代後期に製作されたものです。写真ではわかりませんが、もしかしたら垂が付いているのかもしれませんが…齋田先生、一度実物を見てきてほしいです。お願いしまーす。

“そもそも、防具っていつの時代から使われているのだろう？”

という疑問を持ち、調べてみました…

【剣道を知る辞典】(東京堂出版)によりますと、“竹刀打ち込み稽古の誕生と発展”という節の中で、『享保(1716年～1736年)に江戸で出現したのが防具で覆われた面を打撃する直心影流の長沼国郷の打合剣術であった。18世紀中旬には一刀流中西派の中西子武が竹刀と竹道具を用いての打合試合稽古を採用し、全国的に広まった』という内容がありました。ざっくりいうと約300年前には防具の原型があって、約270年前には防具を用いた稽古が普及し始めていたということです。



図6

(図6)は1860年頃から1880年頃に日本で活動していたイタリア人写真家フェリーチェ・ベアドが撮った写真です。これもよく見ると胴と垂が一体になっていますね。防具の下に着ている服はもしかして稽古着ではなくて、日常着ている普段着なのではないかと思いました。しかし、当時の稽古は屋外で素足でやっていたのですね。。。ちょっと共感するわあ(※)

※(私が高校1年の時、剣道部は肩身が狭くて校内に稽古場がなくて体育館は他の部活に占領されていて、1年くらい校庭でやっていたことがあります。袴は砂ぼこりがついて裾の方は灰色になりました。)

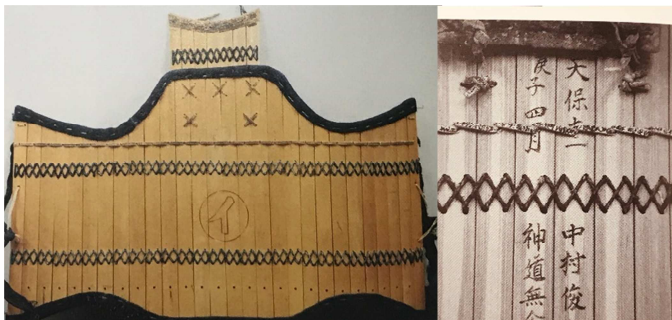


図7

さて、確実な製作年がわかる古い胴がありました。(図7)は【絵図と写真に見る剣道文化史】(全日本剣道連盟)から引用しています。裏に天保11年(1840年)と記されています。短冊状の竹の幅はおそらく20～23mmくらい、本数は28本。胴台の高さが現在の胴よりも高いですね。子胸はありませんが、竹が長いので脇の下までカバーしている感じです。

胴胸がずいぶん小さいです。竹の縁を覆っているのは革ではなく布ですね。想像するに、腹部に巻いているイメージに近い状態なのではないかと。竹の厚みはわかりませんが、胴自体はかなり変形しやすい様に見えます。簾をくるくると丸められるように、これも丸めることができそうですね。この道具で本気で打ち合っていたのかと思うと、打たれたら痛そうだなあと、少しぞっとします。

ということで、胴の仕上げの3種類のうち、最後の『編む』について、好き勝手に述べさせていただきます。防具の原型ができてから約300年経っている割には、あまり形が変わってないなあと個人的には思います。でも変わらないことが剣道の魅力なのかもしれません。

ではまた次回。

ほんとに色々...etc おおよね 日記

秋のある日

キャー

肩全体が
寝ちがえた感じ？
になり、腕が上からな
くなりました。



薬局でとりぬえが
しっぴを買いました。

五十肩
ですかー？
半年くらい
治らない
ですよー

ゆたしは
どうでした

ガーン



しっぴで治らず

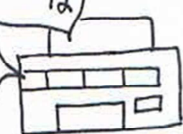
暗い

と持ちで

病院へ

いたときは
うごかす
ないよね

はい...



でも
三日後には

ああ

ほほ
いける

となり



病院の先生に

許可もらって

再開します

...ちゃんごう...

HJ先生

石井さん
もう大丈夫
なの？

はい

若いねー

えっ

キョロ

キョロ



いや...

何が
赤いかなーって

...

じー

いや
若いねーって
言ったんだけど

...

...

...

...

耳は若く
なかつた...

